

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276000112		
法人名	有限会社桜ケアセンター		
事業所名	グループホーム憩の家		
所在地	千葉県山武市本須賀3841-2		
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	VAICコミュニティ研究所		
所在地	千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通じ、比較的温暖で豊かな自然に恵まれた環境である。
 利用者の皆様方に対しては「ケアする・される」という関係ではなく、「今を共に生きる」という気持ちで接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の笑顔が多く見られるホームである。入居者への職員の対応にも気負いが無く、事業所が目指す「人としての尊厳を大切にしたケア」がターミナルケアを含め、ごく自然に行われている。また、サービスの質の向上を実現するための研修には力を注いでおり、研修の出席率が高い。昨年は津波による避難を余儀なくされただけに、実践に役立つ準備を整えようという意欲が強く、今後は隣接する高齢者専用賃貸住宅との合同避難訓練など、新たな取り組みを始めようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を大切にしたケアを実践している。また、地域との温かな交流を常に心掛けている。	ホームでは事業所としての理念をつくり、折に触れ職員と確認し合っている。確認するだけでなく実践することに重きをおき、入居者の心に寄り添うケア、家庭的であることを大切に支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年お祭りに作品を出品して参加したり、回覧板なども回して載っている。また、よく新鮮な野菜などを差入れして下さる。	ホームは地域でも知られた存在となっており、自然に挨拶をかわしたり、差し入れがあつたりする。近隣のお祭りに作品を出品したり、回覧板を回すなど、継続した関わりとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の様々なボランティア団体の皆さんの踊りや音楽、朗読等々をよくお招きし認知症の方への理解を図る一助としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来るだけ運営会議での意見を吸い上げサービスの質の向上に努めている。	この1年間では3回開催した。行政の参加も得られ、家族の出席率が比較的高く、ざくばらんな雰囲気ではあるが、行政以外の関係機関の参加が実現していない。	民生委員、地域の自治会などへ積極的に働きかけ、地域の理解と支援を得る取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは出来るだけ密に連絡を取り合っている。より良い関係をこれからも構築して行きたい。	ふだんから市の担当者とは連絡を取り合い、訪問したり、電話で実情を話している。市がセッティングするグループホーム勉強会にも出席しており、そこから職員の相互訪問の関係に発展するなど、広がりも生まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が指定基準を熟知している訳ではないが、概ね理解して取り組んでいる。	職員には定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日頃から入居者の行動をさまたげないよう心がけ、玄関などは施錠せず、職員の見守りなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても概ね理解しているが、きつい言葉掛けをついしてしまうことはあるようだ。研修や会議などでより理解を含め実践して行く。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様のお一方に青年後見人として弁護士に委託されているご家族がおられ、色々と学ぶ機会を持っている。しかしもっと深く知らねばと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必ずしも充分とは言えないだろうが、利用者の意見や不満・苦情相談等を受け止めて運営に反映させるよう努めている。	家族アンケートを集計し、職員でも話し合いを持った。信頼関係があつて初めて意見や要望が出てくるとホームでは考えており、家族の来訪時や電話でも意見や要望を聞き、早い対応や随時の報告を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングの他にも毎朝の申し送りや個々の面談等を通じて意見や提案を運営に反映させている。	管理者は職員と何でも言い合える関係作りを目指し、シフトや待遇の希望を聞き、時には代表者に強く求めることもある。外部研修の情報を知らせたり、その際の交通費助成など、職員意見の反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	低給与でボーナス等も殆ど出せないのが勤務シフトに関しては極力個々の希望に沿うようにしている。色々な意味でより良い職場環境・条件等を改善中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ其々の段階に応じ、適宜研修の受講や資格取得のバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に9回ぐらいの頻度で同業者との交流会を行っており、ときには相互訪問などして質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方のプロフィールを各スタッフが把握し、その人らしさを大切にされた支援を心掛ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や本人の意見・要望をよくお聞きし、気持ちに沿えるように努めて行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の様々なお話等からその奥に潜む真のニーズを把握するように努めている。また、他のサービス制度についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ケアする・される」関係ではなく、今を共に生きる関係を常に目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方で暮らしている方が多く密なる関係を保てるご家族は限られている。意識としては、共に支えて行く関係と捉えられていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲でそのように努めている。	毎月自宅に戻り、仏壇の手入れをする入居者もいる。人をもてなすことを大切にしてきた入居者には、来訪者にお茶を出す、などホームの中で継続できることを担ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の問題は確かにあるが、時間をずらしたり席替えをしたりなど、色々工夫しながら調和・平穏を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も敢えて関係を断ち切る事はせず、必要に応じて係わりを持って行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の意向や希望を尊び、極力本人本位の立場に立った対処をして行く。	日常会話の中からだけでなく、表情などから意向を推測して対応している。入居者の記録や家族の意見も聞きながら、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から把握するよう努めるだけでなく、その方のプロフィールに改めて目を通したりご家族や関係者にも改めてお聞きしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状態把握には医療面始め様々な角度から行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	参加出来るご家族は限られているが、出来るだけ本人の意見を最優先するようにし、本人の立場に立った計画とモニタリングを行っている。	職員は入居者や家族だけでなく、医療関係者や時には福祉用具の専門家の意見も取り入れて介護計画を作成し、定期的なモニタリングも行っている。木製歩行器の導入などはチームで検討した良い例である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録が基本になるのでそれを大切にしている。特に問題がある場合は、改めてケアカンファを行ったり朝のミーティングで何度も話し合ったりして方針を固め実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟性のある臨機応変のケアは、このホームの特色でもあるので、これからも同様に取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役所の担当をはじめ、近所の民生委員・自治会の方々、各ボランティア団体、歯科医、かかりつけ医等々と臨機応変にスクラムを組んで対応し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在或る在宅診療所と殆どの入居者様方が契約を交わし毎月必ず2回の往診は受けている。また、末期ガンなどの状態になれば毎日のように診に来て下さる。	家族の了承を得て、全員が毎月2回、協力医の診療を受けている。緊急時に関しても、協力医の判断をおおいでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の服薬管理・健康管理を介護職のスタッフと情報交換しながら適切な看護を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、ご家族と共に医師や看護師などから話を聞き、出来るだけ記録にして残している。サマリーは必ず頂き、退院の受け入れケアカンファなども出来るだけ行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取り介護等については、入居当所から説明し、ご家族や医療従事者共々協力し合いながら支援の方向性を築いている。	事業所では看取りをする方針で、既に実績もある。入居の段階から説明をし、希望者とは同意書を交わしている。終末期には毎日医師の往診があり、職員と家族が連携して入居者を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	このところ年に一度は救命救急処置の実践訓練に参加し、職員の内何割かは実践力を身に付けていると言える。しかし、夜間一人で対処しなければならない場合は現実としてかなり困難である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3.11では、津波警報後、スタッフ全員の他近所の方々の手助けもあり、早々に避難場所の小学校まで行けた。しかし広々とした体育館は寒過ぎたので中で待機はせず、社長個人宅へ身を寄せた。施設被害は床下ぎりぎり済んだ。	年2回の防災訓練を行っている。津波被害の経験から飲料水を備蓄することとした。防災マニュアルの整備と地域の協力体制の構築が今後の課題である。	安全な避難に向け、マニュアルを整えることが必要と思われる。また、地域の協力体制構築にも、引き続き取り組んでいく事が期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人を尊重した言葉掛け・対応を行っている。個人情報については、ご家族に説明し同意を得ている。	職員は、入居者の笑顔が見られるような言葉かけを意識している。個人情報については、慎重に扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の意思・希望を尊重し、自己決定権を重んじている。自ら決められない方には、相談援助を行いながら決定して戴く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日一日のしたいことややりたい事を心身の状態を勘案しつつ出来るだけ達成できるよう支援して行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみに配慮した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に食事する楽しみを共有し、コミュニケーションの場ともなっている。入居者さん同士の関係性に配慮した席位置など気を遣っている。	職員と一緒に食卓を囲み、会話が弾んで和やかな食事だった。メニューは入居者の希望と職員のアイデアを生かして、季節の食材を使っている。時には外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録を取りつつ気配りしながら行っている。中には十分な水分摂取がどうしても難しい方もおられ、時に点滴などして戴く事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医とも協力し合いながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察・記録により、排泄パターンを把握し、サインを見逃さず出来るだけ自力排泄できるように支援している。日中は出来るだけオムツの使用を減らしている。	ホームではトイレでの排泄を大切にしている。排泄パターンを把握し、職員がさり気なく誘導をしている。状況に応じてポータブルトイレを利用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の観察・記録を基に食量や水分量を把握している。予防措置として体操や散歩、飲食物の工夫を行い対応している。それでもダメな場合は投薬対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはあるが、飽くまで利用者本位なので臨機応変に対応している。また、冬には例えばゆず湯など工夫している。	週2回を基本としているが、柔軟に対応に努めている。浴槽は三方から介助できる作りで、坪庭、ゆず湯など、入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の照明や温度・湿度など、利用者の希望や体調に合わせて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大半の職員は把握しているが、何か疑問や問題点などがあれば看護師に聞いたり説明書を見たりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの情報を基に生活歴や特技を活かした役割などに就いてもらう事により、日々の暮らしに喜びを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様其々の体調や気持ちを考慮しながら、出来るだけ皆外出できるよう心掛けている。時に外食に出掛けたりイベントに参加したりしている。	午前中は近隣を散歩することが多い。車で買い物や外食、花火大会、お祭り等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分でお金を管理されている方はいない。ホームでお預かりしている方は殆ど居られないし、めったにお使いになる事も無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の希望は時たまあるが、手紙の方は無い。ご家族にもご協力戴き、都合の就く範囲で電話口に出て頂き支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは比較的広く、食事以外はテーブルをどけて催物に使用している。広い開口部からは庭の草花などが眺められる。隣に2階建ての高専賃が出来、時折往来して仲間を増やし、ストレス解消も行っている。	リビングから続くウッドデッキは庭へそのまま出られる作りで、行事などでも活用される。リビングのソファで職員とおしゃべりしたり、入居者は思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に合わせた居場所造りを行っている。其々くつろぐ場はほぼ決まっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室はプライバシー空間として使い慣れた家具や寛げる物を持ち込み居心地の良い環境造りに努めている。	各居室には大きな収納があるため、すっきりと整理されている。趣味の作品や家族の写真、気に入った家具などを持ち込んでおり、自分だけの空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的な福祉環境は整っている。各所に手摺もあり、身体機能を活かすという意味でも整備されている。		